



保健室からこんにちは



みなさん、こんにちは。水産大学校の医務室で看護師として働いています中川 宏実と申します。今回は、私がみなさんに水産大学校の医務室をご紹介します。

水産大学校は、山口県下関市内中心街から北西に向かい七曲海岸をぬけた吉見地区にあります。キャンパスは、竜王山と吉見湾、響灘に囲まれ、自然豊かな場所にあります。

学生が「前海」「裏海」と呼ぶキャンパス周辺の海では、釣り好きの学生が早朝から釣りを楽しんでいる姿を見かけます。釣った魚を医務室に持って来てくれる学生もいて、鮮度が抜群なので大変美味しくいただいています。



大学正門から見える景色です。



本校は、約900人の学生が在籍し、約170人の教職員の方々が在職している小規模大学ですが、「海から食卓まで」水産のあらゆる分野を学ぶ5つの学科があります。船の運航や海の恵みを効率よく獲るための教育を行う「**海洋生産管理学科**」、船のエンジンや魚の輸送技術の開発などの教育を行う「**海洋機械工学科**」、健康により水産物のはたらきや加工、水産食品の安全性などについて教育を行う「**食品科学科**」、水産物が食卓に届くまでの流れとそれに関わる経営についての教育を行う「**水産流通経営学科**」、生態系を考え水産資源を増やす、基礎から先端までの教育を行う「**生物生産学科**」です。



医務室は、学生コミュニティーホールの2階にあります。ホールの1階には、生協のショップと食堂があり、階段を上がると、「水の生き物研究会：アクラス」の学生達が、近隣の海や川で採取した生き物を飼育している水槽が置いてあるスペースがあります。このスペースは本校ならではの空間で様々な生き物が来訪者を出迎えてくれます。

医務室は、通常は、看護師1名(常勤)で開室しています。1人で対応が難しいときは修学支援室の室長や係長、教職員等と連携しつつ対応しています。開室時間は、月曜日～金曜日の9時～17時です。



医務室の入り口を開けると、大きな窓からの陽射しでとても明るい印象です。ワンルームですが、奥側が処置や休養をするスペースでベット1台、処置ベット1台、処置用品カートがあります。学生の創部処置をしたり、症状に応じてバイタルチェック等を行いベットで休養させ観察したりしています。受診が必要な場合は、医療機関の紹介を行います。救急対応としては、まず傷病者の場所に行き、症状等の観察、バイタルサイン測定等を行い必要に応じて救急車を要請します。移送可能な場合は、車いすを使用します。



医務室の中央には、丸テーブルが置いてあり、ここで学生がくつろげるスペースにしています。孤独感を抱き1人で来室する学生もいますが、医務室内でちょっとしたきっかけから、少しずつ学生同士で話が出るようになるケースが多くあります。



学生相談室

医務室の入り口側は、学生と話をしたりデスクワークをするスペースです。相談を希望する場合は、隣接する学生相談室を利用して行います。

学生相談室では、月曜と木曜の午後に臨床心理士によるカウンセリングが行われています。

最後に～

私は、本校に勤務して5年が経ちます。前職は、医療機関で働いていたので、大学の医務室に勤務した当初は戸惑う事も多くありました。いろいろな悩みを抱き生きにくさを感じる学生も多く、医務室が彼らの「心の拠り所」になるよう、開放感と受容感を与えられる空間作りを行っています。大学は、学生を支援できる最後の場です。これからも、いろいろな悩みや苦しみを抜けて、社会に翔たいていけるように学生に寄り添い支援していきたいです。

看護師 中川 宏実



学生が持って来た観葉植物。みんながお世話してくれます。